

プロジェクト研究 : 『国スポ ドーピング・コントロール』に関するアンケート集計

知識・認知度に関する設問(7項目)と、知識に基づいた行動に関する設問(2項目)、意欲・不安感に関する設問(1項目)を実施した。

1 禁止物質が体内に入った責任は、選手自身にあることを知っていますか。

	少年女子	少年男子	成年女子	成年男子	総計
知っている	251	327	203	317	1,098
知らない	29	34	8	20	91
無回答	0	1	0	1	2
計	280	362	211	338	1,191

少年・成年種別ともに9割の選手が理解していると回答。アスリート自身が体内に取り入れるもの全てに対して、責任を持っているということがわかる。アンチ・ドーピングのルールを正しく理解し、こういった場面や物から禁止物質を摂取してしまうリスクがあるのかを認識したうえで、自分の行動を管理し、証明できることが重要である。

少年女子



少年男子



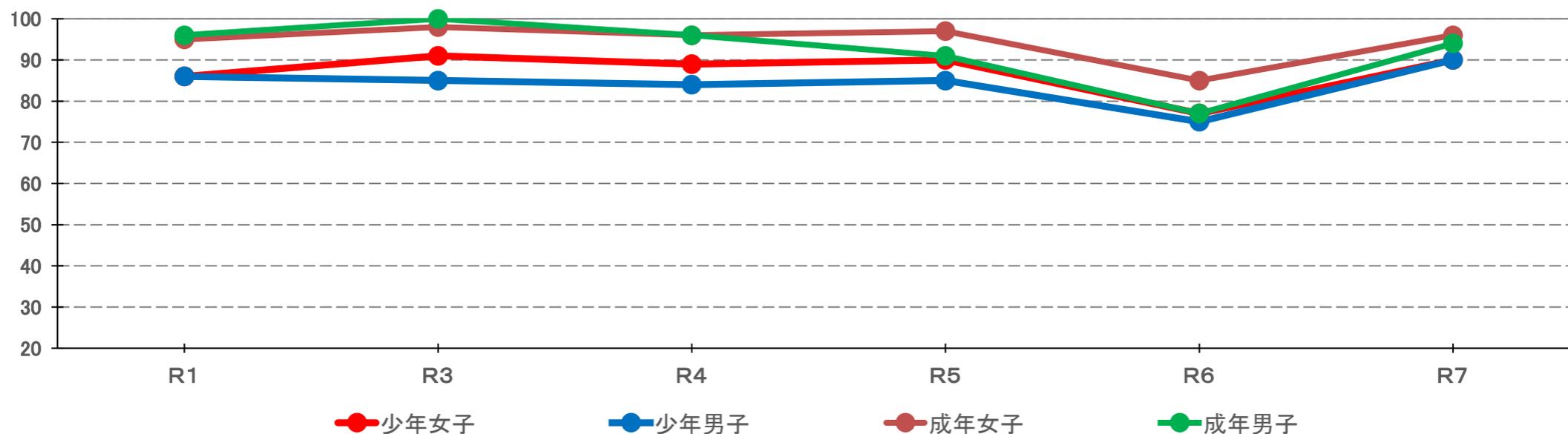
成年女子



成年男子



【質問1】 禁止薬物が体内に入った責任は、選手自身にあることを知っている。

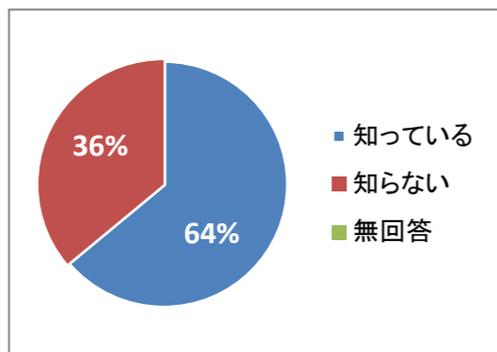


2 ドーピング防止規則は、禁止物質だけでなく禁止方法についても規定されていることを知っていますか。

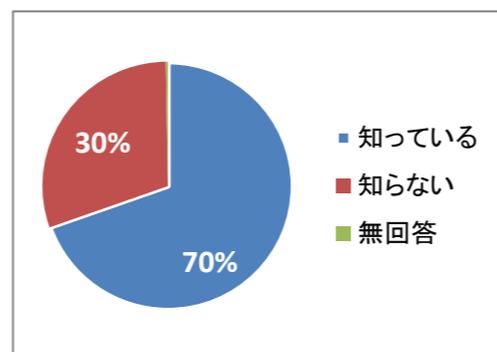
	少年女子	少年男子	成年女子	成年男子	総計
知っている	179	252	190	305	926
知らない	101	109	21	32	263
無回答	0	1	0	1	2
総計	280	362	211	338	1,191

少年種別において、「知らない」と回答している割合が多い。スポーツの中で禁止されている物質と方法については、全世界、全スポーツ統一のルール「禁止表国際基準」を確認したい。専門的な知識が必要になるため、使用する薬が禁止物質や禁止方法だった際は、禁止物質や禁止方法ではないものに薬を変更できないか等、医師や薬剤師に相談することを伝達する必要がある。

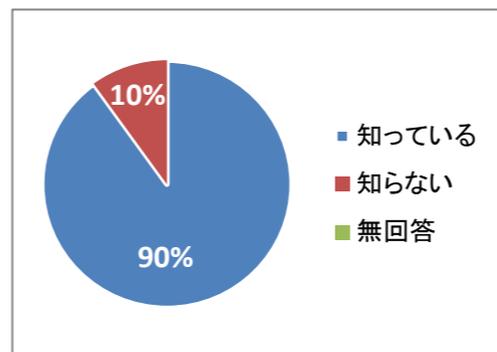
少年女子



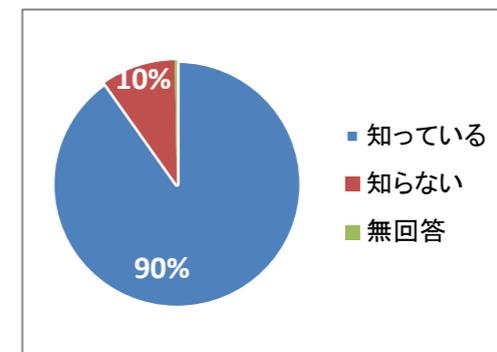
少年男子



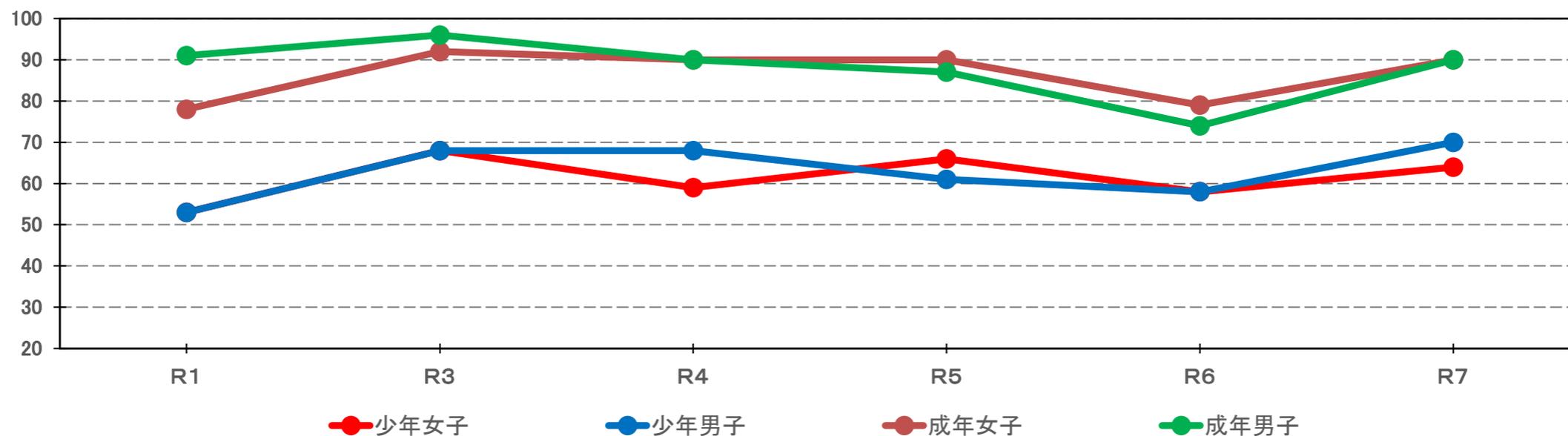
成年女子



成年男子



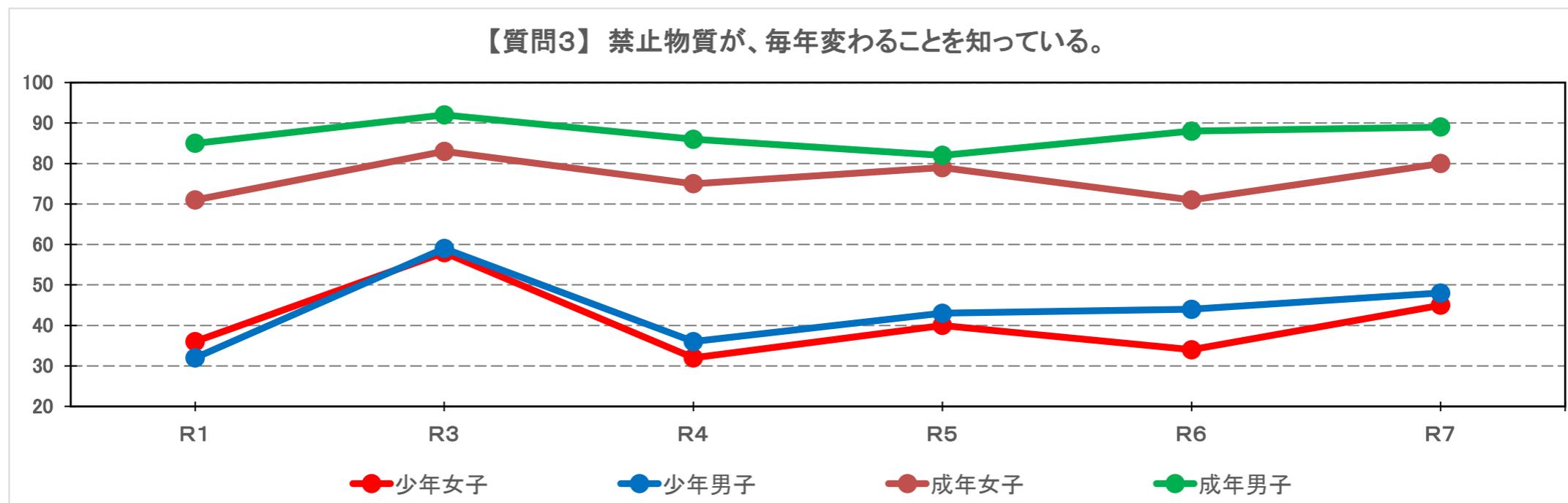
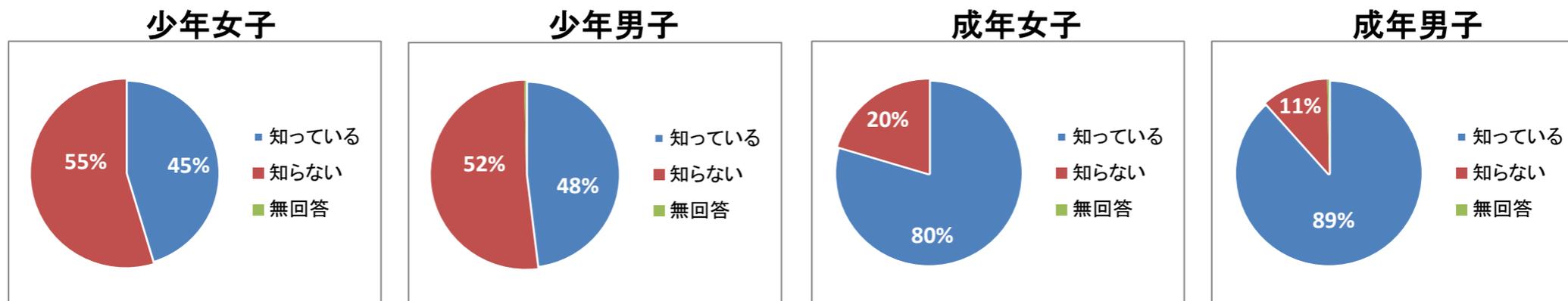
【質問2】ドーピング防止規則は、禁止物質だけでなく禁止方法についても規定されていることを知っている。



3 禁止物質が、毎年変わることを知っていますか。

	少年女子	少年男子	成年女子	成年男子	総計
知っている	127	174	168	299	768
知らない	153	187	43	38	421
無回答	0	1	0	1	2
総計	280	362	211	338	1,191

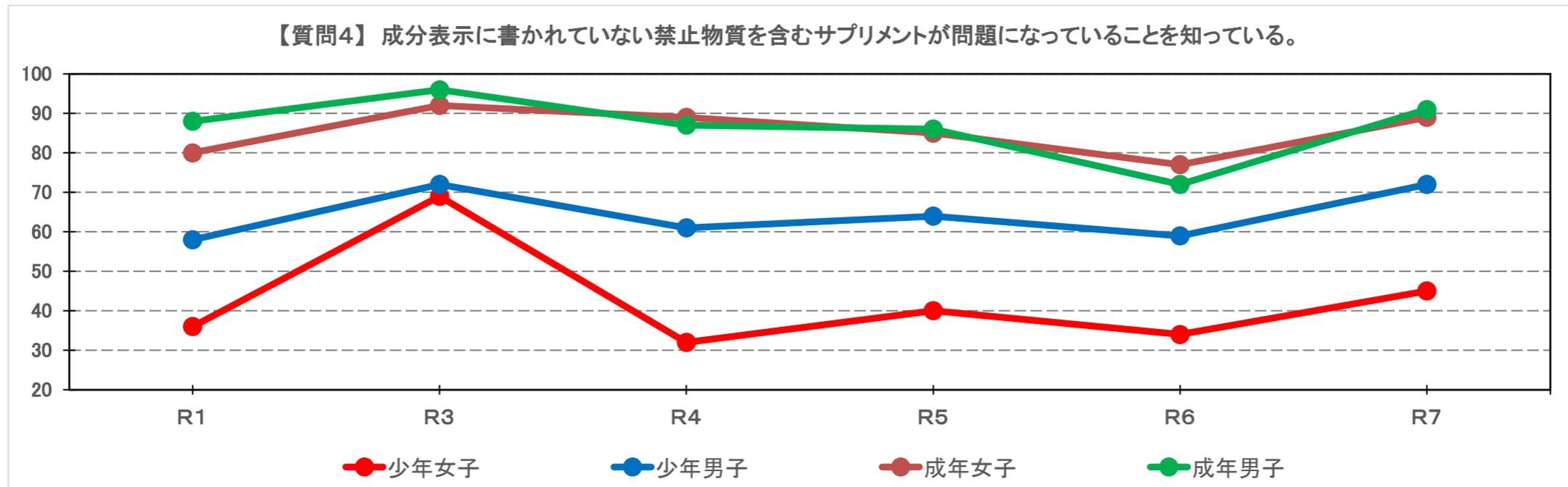
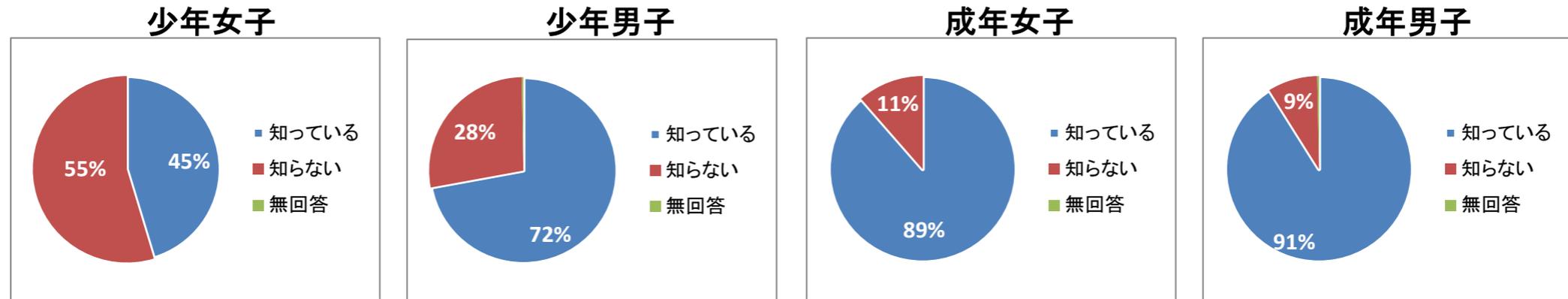
禁止物質や、禁止方法は、新しい薬の開発状況や、ドーピングの世界的な傾向をもとに、少なくとも1年に1回(毎年1月1日)更新されている。講習会等を通して「禁止法国際基準」について、基本的な事項を確認していくとともに、禁止薬物や国際基準の変更などに伴う最新情報を適切に伝達していく必要がある。



4 成分表示に書かれていない禁止物質を含むサプリメントが、よく問題になっていることを知っていますか。

	少年女子	少年男子	成年女子	成年男子	総計
知っている	180	261	187	308	936
知らない	100	100	24	29	253
無回答	0	1	0	1	2
総計	280	362	211	338	1,191

少年種別(女子)は、サプリメント摂取者が多くない事もあり、サプリメントについて正しい情報を掴んでいない傾向にある。まずは、選手自身がドーピングの知識に加えて食事の重要性を理解し、安易にサプリメントに頼らない食生活習慣を身に付けていくことが大切であるが、サプリメント摂取のリスクについても、考えていく必要がある。

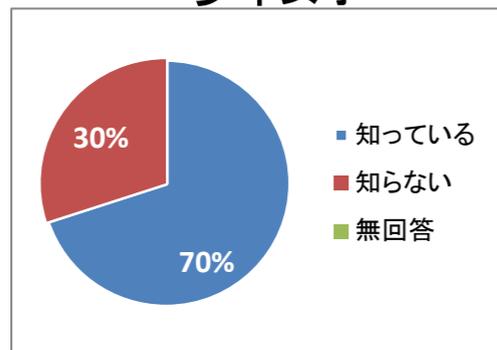


5 風邪薬や胃腸薬などの市販薬に、禁止物質が含まれていることがあることを知っていますか。

	少年女子	少年男子	成年女子	成年男子	総計
知っている	196	269	190	309	964
知らない	84	92	21	28	225
無回答	0	1	0	1	2
計	280	362	211	338	1,191

少年種別の選手が、市販薬の購入や利用時のリスクについて知らない。薬剤師会ドーピング防止ホットラインや薬の検索サイト「Global DRO JAPAN」の活用を図るとともに、公認スポーツファーマシストの存在を選手・監督により広く周知し、薬に関して気軽に相談できる環境を整えていく必要がある。

少年女子



少年男子



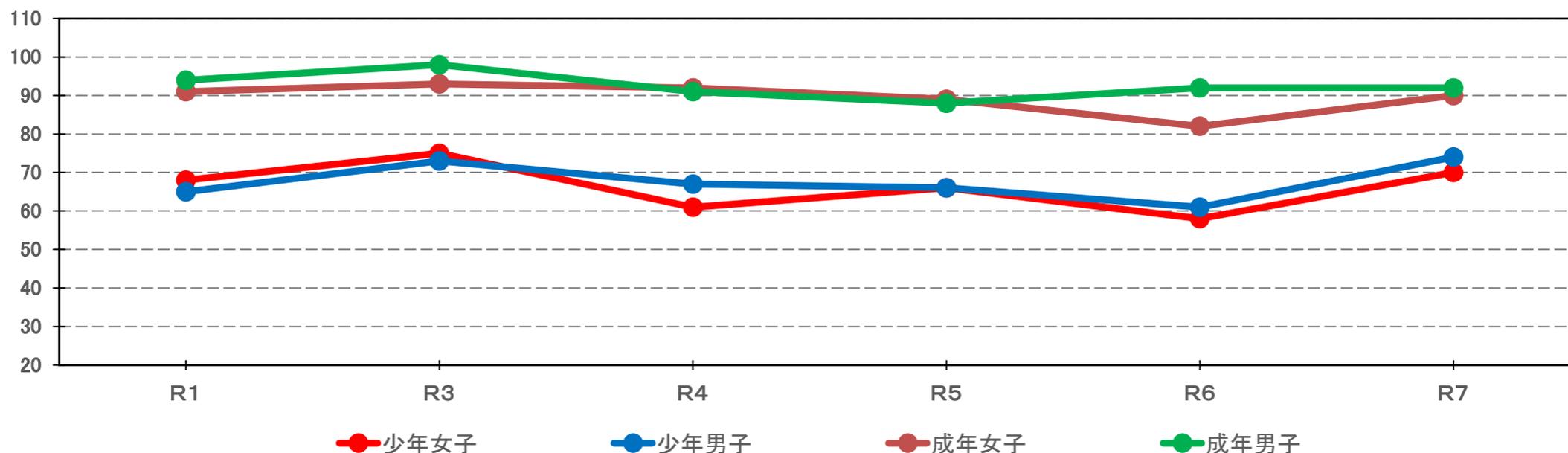
成年女子



成年男子



【質問5】 風邪薬や胃腸薬などの市販薬に、禁止物質が含まれていることがあることを知っている。



6 治療を受ける際、自分がドーピング検査を実施する競技会に臨む競技者であることを、主治医へ伝えていきますか。

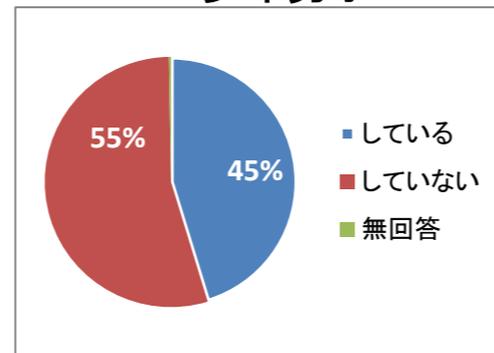
	少年女子	少年男子	成年女子	成年男子	総計
している	105	164	158	273	700
していない	175	197	53	64	489
無回答	0	1	0	1	2
計	280	362	211	338	1,191

少年種別の選手半数以上が「伝えていない」と回答している。主治医は、患者がドーピング検査を実施する競技会に臨む競技者であるか否かを判断することはできないため、治療を受ける際には、選手自身が責任をもって自主的に医師にその旨を伝える必要がある。これらは、自分がクリーンなアスリートであることを証明するための大切な行動となる。

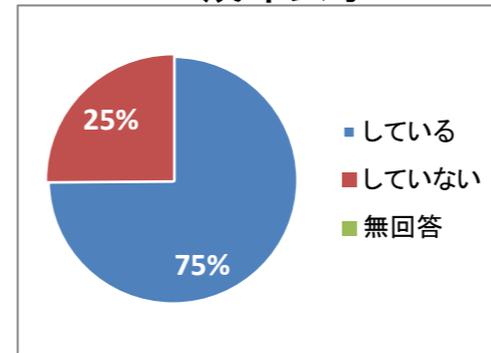
少年女子



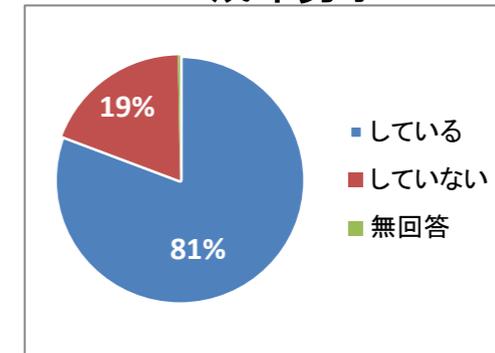
少年男子



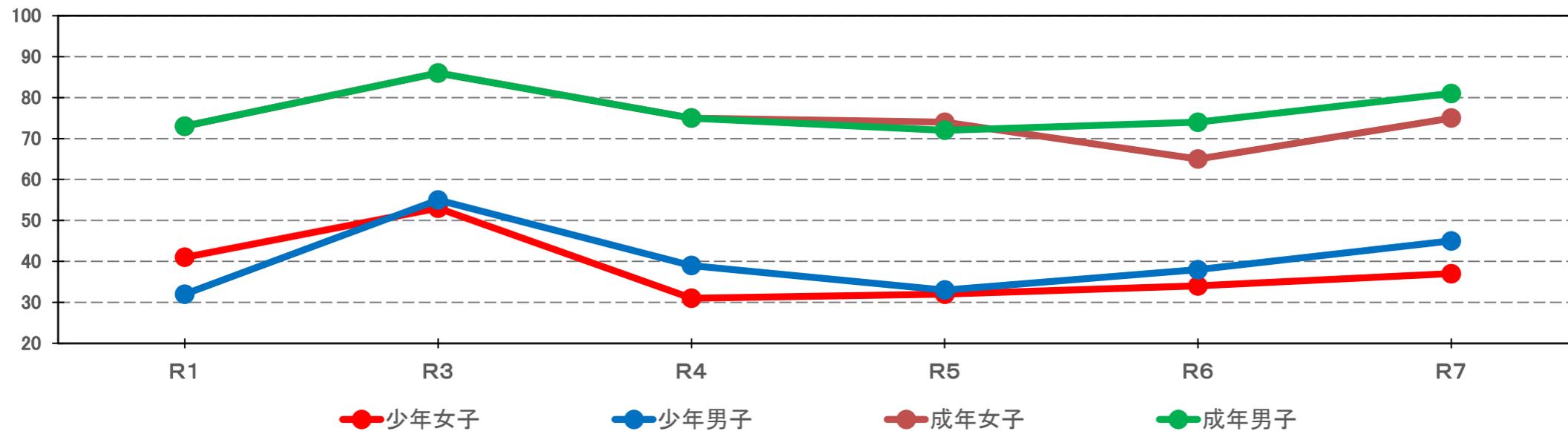
成年女子



成年男子



【質問6】 治療を受ける際、自分がドーピング検査を実施する競技会に臨む競技者であることを、主治医へ伝えている。



7 治療に使った薬は、記録に残していますか。

	少年女子	少年男子	成年女子	成年男子	総計
している	169	205	162	241	777
していない	111	156	49	96	412
無回答	0	1	0	1	2
計	280	362	211	338	1,191

医薬品のリスクを回避するための行動に関する設問である。まだまだ、成年種別・少年種別ともに、「記録を残していない」と回答している選手がいる。病院で処方される薬や薬局で購入する薬にも禁止物質が含まれる可能性がある。医薬品であっても、選手が自分の体に入れるものに対しては常に責任をもち、相談した記録やGlobal DRO等で検索した結果を残しておくことが重要である。

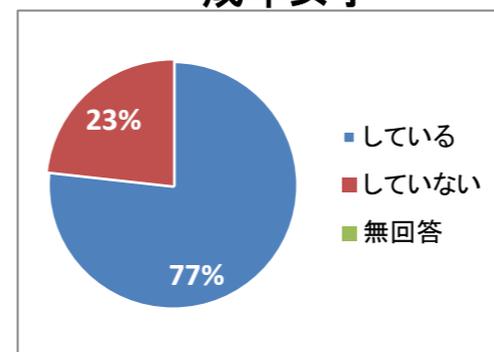
少年女子



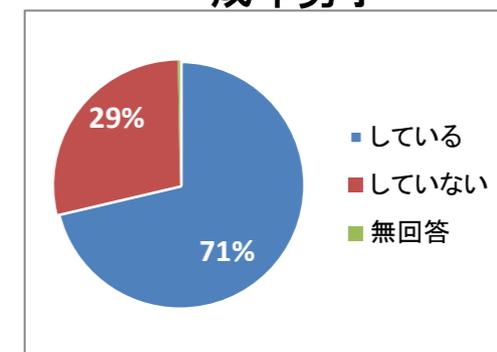
少年男子



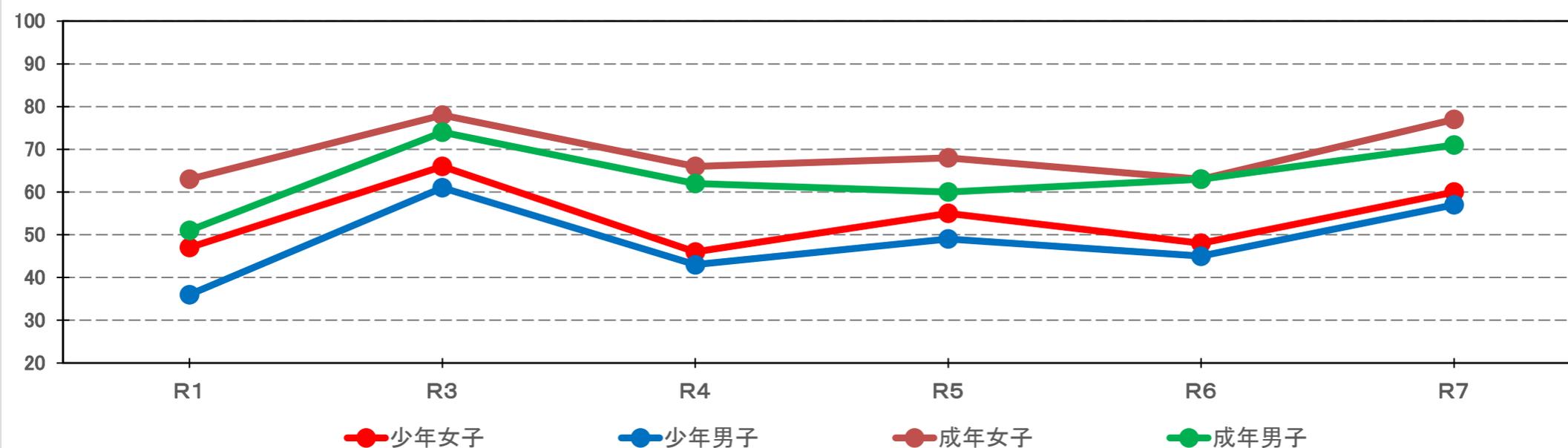
成年女子



成年男子



【質問7】 治療に使った薬は、記録に残している。

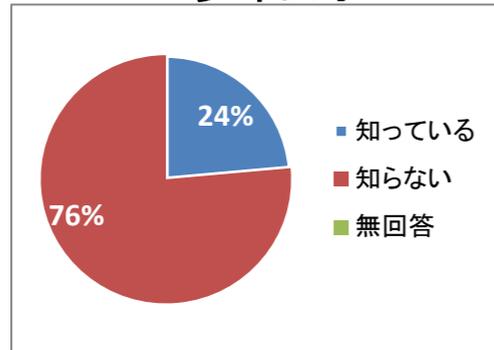


8 TUE申請とは何か知っていますか。

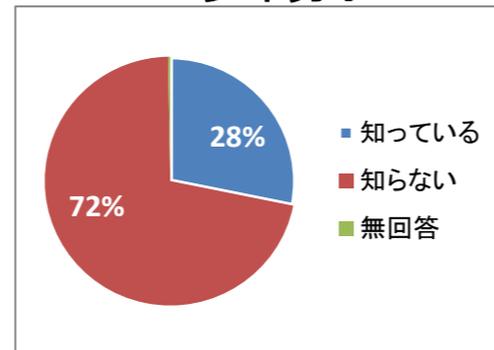
	少年女子	少年男子	成年女子	成年男子	総計
知っている	66	102	124	219	511
知らない	214	259	87	118	678
無回答	0	1	0	1	2
計	280	362	211	338	1,191

少年種別のほとんどの選手がTUE(治療使用特例)申請について「知らない」と回答している。TUE申請が必要となる選手が少ないことも影響していると考えられるが、緊急を要する場合も含め、治療上、禁止物質を使用する必要がある選手が、TUEの知識がないことで競技の機会を潰すことのないよう、指導者も含め正しい知識を広く浸透させていく必要がある。

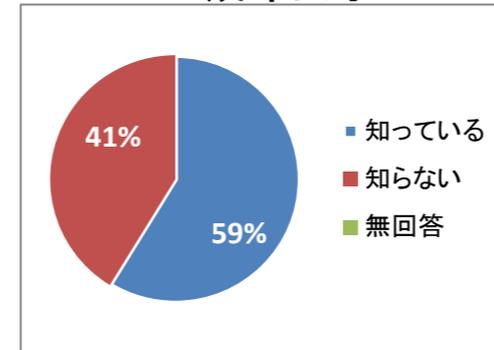
少年女子



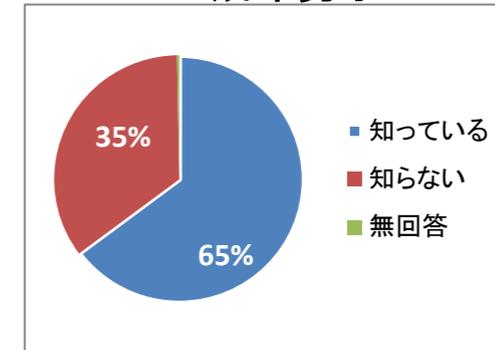
少年男子



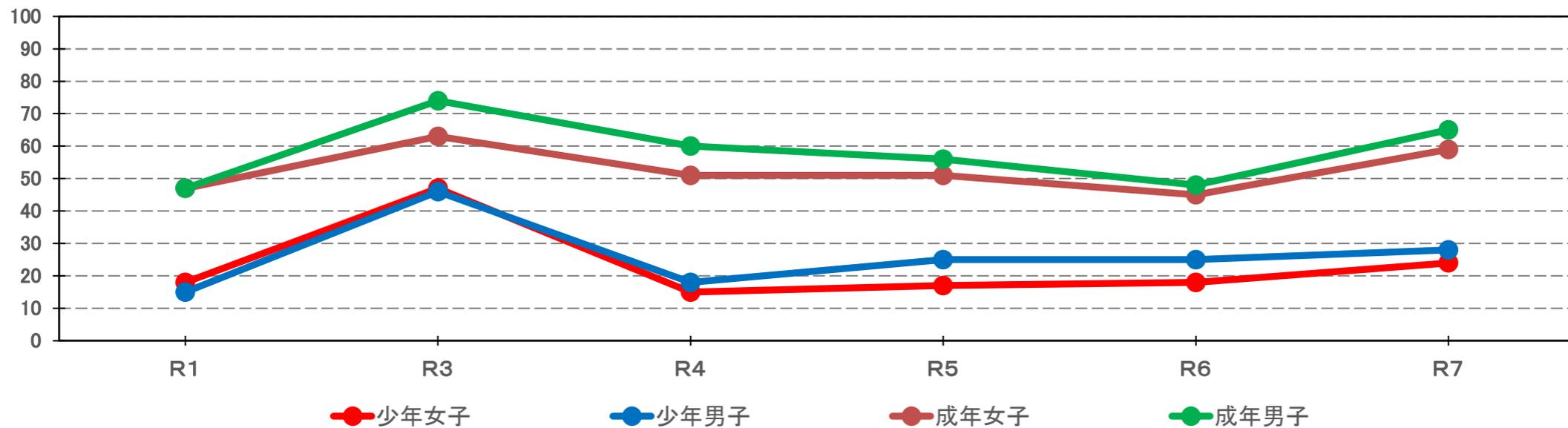
成年女子



成年男子



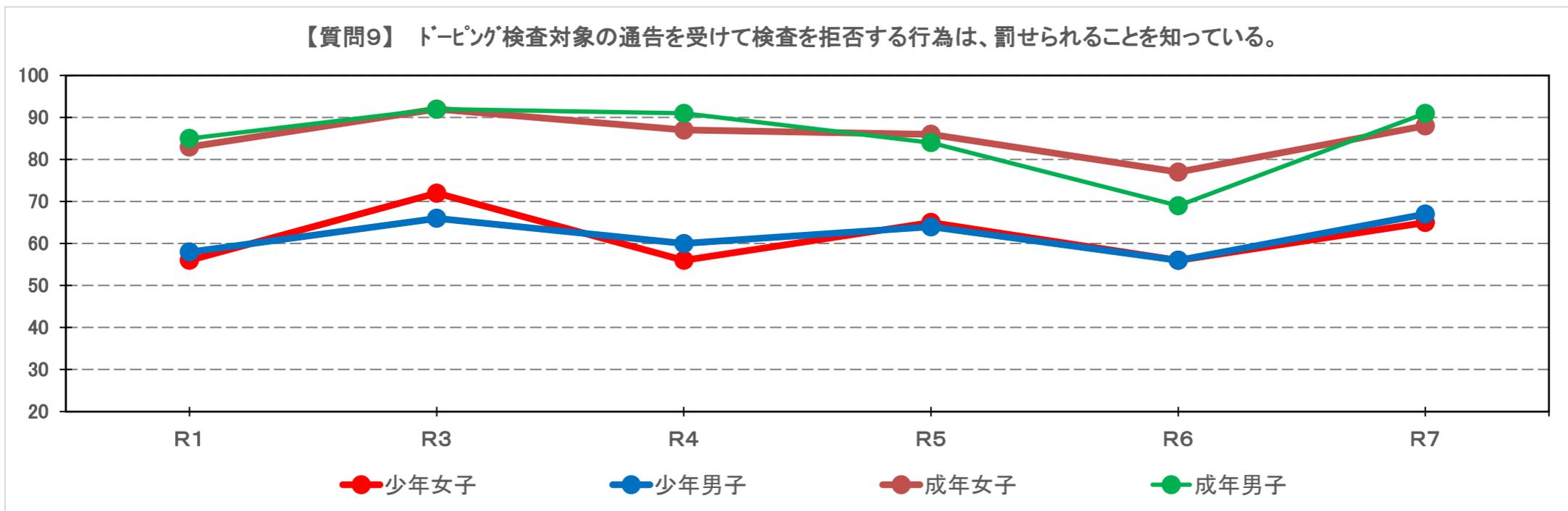
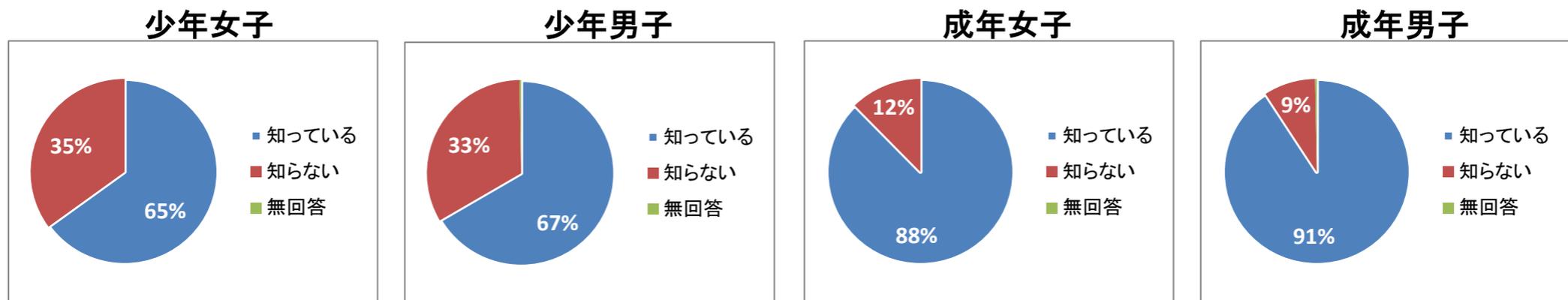
【質問8】 TUE申請を知っている。



9 ドーピング検査対象の通告を受けて検査を拒否する行為は、罰せられることを知っていますか。

	少年女子	少年男子	成年女子	成年男子	総計
知っている	182	241	185	307	915
知らない	98	120	26	30	274
無回答	0	1	0	1	2
計	280	362	211	338	1,191

アスリートは自分がクリーンであることを証明するために、いつでもどこでもドーピング検査に対応する責務がある。ドーピング検査の実際の手順や競技会検査・競技会外検査などの基本的な事柄を理解しておく必要がある。特に、国際大会に出場する機会が増える成年種別においては、RTP(検査対象者登録リスト)や居場所情報提出等の仕組みについても理解を深めていく必要がある。



10 専門家によるドーピング講習会を希望しますか。

	少年女子	少年男子	成年女子	成年男子	総計
希望する	56	99	76	141	372
希望しない	224	262	135	196	817
無回答	0	1	0	1	2
計	280	362	211	338	1,191

WEBによるデジタルラーニング、アンチ・ドーピング教育動画の視聴及び「クリーンスポーツ行動チェック(リアルチャンピオンクイズ)」を回答する方法だけでなく、対面での集合講習会等、本委員会が開催している講習会の持ち方、内容を工夫し、競技団体(競技団体独自の取り組み等)と連携して、より多くの集合講習会の機会を提供し、正しい知識の浸透を図りたい。

